

## プレシャス・ピアノ・コレクション2【中級～上級編】

## 1. レット・イット・ゴー ～映画『アナと雪の女王』より／イディナ・メンゼル

SMFあり

★★★★☆

世界中で話題となり、日本でも大ヒットを記録したディズニーアニメ映画『アナと雪の女王』主題歌。アナの姉である雪の女王エルサが「Let It Go（私の道を行く）」と劇中でも力強く歌っています。イントロの[A]、および歌が始まる[B]は、雪と氷の王国をイメージしながら落ち着いて演奏します。メイン・テーマである[D]に入ってからは一転してスピード感を持ち、曲の最後までそれを保ちましょう。間奏の[E]、[H]で場面転換し、その後はさらにドラマティックに力強く進行していくアレンジとなっています。

## 2. ふるさと／岡野貞一

★★★★☆

震災復興への応援メッセージが込められたピアノ・インストゥルメンタル調のアレンジとなっています。各セクションにそれぞれのイメージを持ちながら、ていねいに演奏してください。例えば、イントロの[A]はふるさとを思い出して懐かしむような気持ちで弾き、[B]はいろいろな苦難に出会ったときの不安な気持ちを表現してみると良いでしょう。[C]以降は、苦難を乗り越え、また前を向いてがんばっていかうといった前向きな気持ちをイメージしながら、音で語りかける感じを表現しましょう。テンポは感情にまかせて揺らしても良いでしょう。

## 3. 酒とバラの日々／H.マンシーニ

SMFあり

★★★★☆

ヘンリー・マンシーニによる代表的なスタンダード・ナンバーの1つで、オスカー・ピーターソンなどの演奏が有名ですが、このようにボサノヴァ風のアレンジで演奏されることも多い曲です。左手は淡々とベース・ラインをキープしている部分が多いので、安定したタッチでテンポ、リズムを一定に保ちつつ、さっぱりと落ち着いた表情でメロディーを演奏しましょう。一方、[D]直前からのアドリブ・パートでは、ベースを同様に保ちつつも、メロディーに自らのアイデアでアクセントやアーティキュレーションを付けて、多彩な表情を表現すると良いでしょう。

## 4. トトとアルフレード ～映画『ニュー・シネマ・パラダイス』より／E.モリコーネ、A.モリコーネ

SMFあり

★★★★☆

映画音楽の巨匠エンニオ・モリコーネによる、イタリア映画『ニュー・シネマ・パラダイス』挿入曲です。サウンドトラックでは同じメロディーがいくつかのシーン、異なるタイトルで使われています。ここでは、軽やかな3拍子のテーマに始まり、最後に映画のメイン・テーマの冒頭部分へとつないだ構成になっています。前半は速めのワルツで1小節を1拍と感じ、各フレーズを一呼吸ずつ捉えてみましょう。[B]は両手に分けて弾いても良いでしょう。[E]、[F]の対旋律は、メロディーに応えるように効果的に弾いてみましょう。その際、ペダルや指遣いを工夫し、ポジション移動をスムーズにつなげられるように工夫すると良いでしょう。

## 5. 愛燦燦／美空ひばり

SMFあり

★★★★☆

昭和を代表する国民的歌手、美空ひばりの1986年の発表曲で、多くの歌手によって歌い継がれている名曲の1つです。作者である小椋桂自身も含め多くのアーティストによってカバーされていますが、ここでは原曲の雰囲気を保ちつつ、ストーリー性を持たせたアレンジで掲載しています。[A]から歌のメロディーが始まります。伴奏部分をしっかりと弾き分け、メロディーが埋もれないように注意しましょう。2コーラス分演奏した後、[F]の間奏を挟み、[G]からは転調してクライマックスへと進みます。エンディングの[H]は音量を落とし、最後は穏やかに曲を閉じましょう。

## 6. オネスティ／ビリー・ジョエル

SMFあり

★★★★☆

ビリー・ジョエルの1978年の発表曲で、彼のバラードの代表作であり、今でも耳にする機会が多い名曲です。メロディーを表情豊かに、たっぴりと歌って演奏することが第一ですが、伴奏パートがアルペジオ、ストライド、内声の和音など多彩な構造になっているので、これをよく整理して全体をスムーズな流れで演奏することが重要になるでしょう。譜面に書かれたアーティキュレーションや、さらには原曲をヒントにして、メロディーと合いの手のフレーズの区別、またメロディーと内声、伴奏とのバランスの取り方をよく研究してみると良いでしょう。

## 7. ひこうき雲／荒井由実

SMFあり

★★★★☆

2013年のスタジオジブリ映画『風立ちぬ』主題歌として脚光を浴びたこの曲は、1973年、当時19歳の荒井由実（松任谷由実）が発表したデビューアルバムの1曲目を飾ったタイトル曲です。夭折した若者を歌った悲しくも美しい歌で、その後のポップスにも影響を与えた都会的なセンス、モダンなコード遣いを見ることができます。メロディーのオクターブを変化させるなど、ややドラマチックにアレンジしてありますが、ミュージックデータの淡々としたテンポに乗り遅れないようにリズムを保ちつつ、メロディーをつぶやくように、あるいは歌い上げるように、表情を付けて際立たせてみましょう。

## 8. 思いは海を越えて／村松健

★★★★☆

電機メーカーのCM曲として親しまれたピアノ曲で、シンプルな伴奏の繰り返しと、独特な装飾音符の入れ方に特徴があります。随所に現われる装飾音符は意識しすぎて固くならないように、また、左手にとりどころ挟み込まれる16分音符も、装飾音符のようにつもりで小さく軽く弾きましょう。メロディーとアルペジオが、1曲を通してよどみなく滑らかに流れることが、この曲を演奏するうえで最も大切なポイントとなります。曲の構成の面では、**A**～**C**は淡々と、**D**は思いがあふれるように表情豊かにと、対比して表現してみましょう。

## 9. ベイビー・アイラブユー／TEE

SMFあり

★★★★☆

天性のスモーキー・ボイスを持つ歌手、TEEのセカンドシングルとして2010年に発表された曲です。全国各地でヘビープレイされ、ロング・ヒットを記録しました。不器用な男性が、伝えたくても伝えられない、もどかしい愛の叫びを歌ったラップ調のラブ・ソングです。原曲の持つ独特の切なさやリラックス・ムードをピアノで美しく再現してください。**C**前半は、バックコーラスとの掛け合いになっていますので、タッチを変えてうまく弾き分けましょう。**D**からのサビは、語りかけるように心を込めて演奏してください。

## 10. グッド・タイム／アウル・シティー&カーリー・レイ・ジェプセン

SMFあり

★★★★☆

歯切れの良い8ビートのリズムを活かしたい曲です。曲全体を通して、コードが8分音符で「食う」進行となっているので、リズムに乗り遅れないように軽快に弾いてください。**A**の左手や、**B**のメロディーの合間に現われるコードの刻みは、粒を揃えてカッチリとした印象で、またコードの変わり目に軽くアクセントを付けるつもりで弾くと良いでしょう。右手には、男性と女性がそれぞれ歌うメロディーやコーラス、またバックのシンセ系のフレーズなど、さまざまなパートが織り交ぜてあります。タッチや強弱の変化を使ってもうまく弾き分けましょう。**E**のサビは音域の広さを活かしてダイナミックに表現しましょう。

## 11. 波（ウェーブ）／A.C.ジョビン

SMFあり

★★★★☆

アントニオ・カルロス・ジョビンによる、ボサノヴァを代表する名曲の1つです。心地よいリズムに乗って、全体に軽やかに演奏しましょう。テンポを一定に保ちつつも、ビートを強調し過ぎることなくさらりと弾くことで、ストライドやアルペジオ、さらには2拍3連符が混在する伴奏のリズムを違和感なく同居させることが可能になります。特に**C**の2拍3連符は強調し過ぎず、流れるように弾くと良いでしょう。メロディーの出だしの拍頭の休符を正確に捉え、さらに休符の手前の音符を切るタイミングをしっかりと拍に合わせて感じることで、安定したリズム感を得るコツです。

## 12. JIN -仁- Main Title／高見優

SMFあり

★★★★☆

2009年に放送され、高視聴率を記録したドラマ『JIN -仁-』のテーマ曲です。郷愁感あふれるメロディーはドラマの随所で使用され、放送終了後もなお多くのファンに親しまれています。**B**からのメロディーは、原曲ではクラリネットやフルートなどさまざまな楽器が代わる代わる演奏していますが、ピアノソロで演奏する場合も音色やタッチに変化を加えるなど工夫してみましょう。また、メロディーとそれ以外のフレーズの弾き分けもポイントです。原曲をよく聴き込みましょう。**E**からは二胡が加わり、大きく盛り上がります。聴く人の心を揺さぶるような、ドラマティックな感情表現を心がけてください。

### 13. シシリエヌ／G.フォーレ

SMFあり

★★★★☆

原曲のチェロとピアノのためのデュオ、また劇音楽『ペレアスとメリザンド』におけるフルートの旋律で有名です。ここでは原曲のメロディーを活かしたジャズ・ワルツのアレンジとなっています。流麗なベースラインや、ややモード感のある独特の和音進行はジャズ・アレンジにもよく活かされていますので、リズムカルさと美しさの両方を楽しんで演奏しましょう。構成はおおむね、タイトなリズムによる[A]、[D]、ウォーキング・ベースを用いた「サビ」のような扱いの[B]、さらに「キメ」の要素が加わった[C]という流れになっています。それぞれの場面の対比を感じ取って表現すると良いでしょう。

### 14. 千本桜／黒うさP

SMFあり

★★★★☆

疾走感あふれる和風ロック・テイストを持つ曲に、アコースティックなジャズ・フィーリングを加えたアレンジとなっています。[A]や[I]のピアノソロのような部分は、透明感のある響きで表情豊かに歌い上げましょう。一方、[F]、[G]、[H]では、アップテンポのスウィングのグルーブを感じ、特に[G]～[H]のアドリブ・セクションでは、左手のベース・リフやウォーキング・ベースの上に、右手を自由な感覚で乗せて弾いてみましょう。曲想の展開が速いため、それぞれの部分の持ち味やそれらの対比を表現することを十分に意識して演奏しましょう。

### 15. ツィゴイネルワイゼン／P.サラサーテ

SMFあり

★★★★☆

ヴァイオリン奏者であり作曲家でもあったスペイン出身のサラサーテによる有名な作品です。誰もが聴いたことのある冒頭の悲劇的な旋律は、情熱的な表現で感情を込めて歌い上げましょう。ミュージックデータを使用する場合は、フェルマータの後などにきっかけとなる打楽器やフレーズが入っていますので、よく聴いてタイミングを合わせてください。なお、この曲はハンガリーの民族舞曲「チャルダッシュ」の形式をとっており、前半の緩やかな“ラッサン”（=[A]～[D]）と、後半の情熱的で速いテンポの“フリスカ”（=[E]～[H]）に分かれます。後半の[E]からは一転して急ぎ立てるように、勢いよく演奏して大いに盛り上げましょう。

### 16. スピーク・ロウ／クルト・ワイル

SMFあり

★★★★☆

1943年のブロードウェイ・ミュージカル『One Touch Of Venus（ヴィーナスの接吻）』の挿入歌で、現在ではスタンダード・ナンバーとして広く親しまれています。ここでは、ラテン系の8ビートと、4ビートのリズムが交互に現われるアレンジとなっており、それぞれのリズムの特徴をしっかりと弾き分けることがポイントとなります。最初のテーマやアドリブの部分などは、休符を意識してノリを十分に感じながら演奏してください。[B]などのオープン・アルペジオや、最後に向かう盛り上がりの部分などでは、ペダルをうまく使ってコード感をしっかりと出しましょう。ただし、ペダルに頼り過ぎたり、逆に響きが足りずにコード感を失うことがないようにしましょう。

### 17. ハッピー／ファレル・ウィリアムス

SMFあり

★★★★☆

世界各地の人々が踊るPVがブームとなった、アメリカのファンク歌手、ファレル・ウィリアムスの大ヒット曲です。曲のイメージに合わせ、楽しくダンスブルな演奏に仕上げましょう。[A]ではメロディーとコード・リフとの対話の形が、[B]ではソロ・メロディーとコーラスパートのポリフォニックな絡みがポイントとなっています。これをよく整理して音色の対比を持たせて表現すると良いでしょう。[B]、[E]での左手の広い音域の伴奏は繰り返しのパターンですので、まずよく覚えてしまいましょう。[D]では小節の最初の休符を見失わないようにしっかりとリズムをキープしてください。

### 18. シャコンヌ「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」より／J.S.バッハ

★★★★☆

原曲は無伴奏ヴァイオリンのための楽曲の頂点とも言える作品で、ブゾーニをはじめとするピアノのための編曲もありますが、ここでは長大な楽章の特に美しい部分をピックアップしてコンパクトに編曲してあります。3拍子の2拍目から始まる、わずか8小節の主題に対する変奏曲という形をとっています。まずは最初の主題で和音とベースラインを力強く印象付けることを基礎とし、変奏曲全体の展開を設計していきましょう。変奏は[B]や[E]などポリフォニックなもの、[C]や[G]など旋律主体のもの、[D]、[F]、[H]などアルペジオによるものなど多彩です。それぞれに応じたテクニックを思いきって使いこなし、スケール大きく表現しましょう。